

令和5年度新潟県原子力防災訓練（冬季訓練）実施結果

柏崎市危機管理部防災・原子力課

1 目的

降積雪時に地震に伴う道路の寸断等による孤立地域の住民避難を想定し、PAZ内の施設敷地緊急事態における要配慮者の避難の手順を確認することにより、冬季の原子力災害時における対応力の向上を図る。

2 実施日時

令和6（2024）年2月12日（月・祝）午前9時30分から11時30分まで

3 参加機関

新潟県、柏崎市、陸上自衛隊、バス事業者、タクシー事業者、東京電力ホールディングス（株）、柏崎市消防団
PAZ内（西山町妙法寺）住民10名

4 訓練想定

積雪時に地震に伴う原子力災害が発生し、施設敷地緊急事態に至る。

防災行政無線により、PAZ内の施設敷地緊急事態要避難者に避難指示が出されるが、地震に伴う市道の寸断等により孤立地域が発生しているという想定で、同地域内の在宅の要配慮者を、陸上自衛隊の高機動車により一時集合場所まで搬送した上で、福祉車両やバスに乗り換えて避難するまでの手順確認を行う。

5 訓練項目及び参加者数

訓練項目	訓練会場	参加者数
PAZ南部地区（西山町妙法寺） 避難行動要支援者避難訓練	妙法寺ふれあいセンター	住民 10人 市職員 3人 消防団員 4人

6 訓練スケジュール

【緊急事態区分：警戒事態（AL）、施設敷地緊急事態（SE）、全面緊急事態（GE）、OIL（放射性物質放出後）】

緊急事態区分	9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00
		施設敷地緊急事態（SE）					
PAZ南部地区 西山町妙法寺 要配慮者の住民避難訓練 （妙法寺ふれあいセンター）	●職員出動 ●コミセン到着	●高機動車到着 ●状況確認・協議 ●道路啓開	●高機動車による避難 ●受付、安定ヨウ素剤配布 ●福祉車両乗車	●高機動車による避難 ●受付、安定ヨウ素剤配布 ●福祉車両乗車	●高機動車による避難 ●受付、安定ヨウ素剤配布 ●福祉車両乗車	●高機動車による避難 ●受付、安定ヨウ素剤配布 ●バス乗車	訓練終了

7 訓練の概要

地震に伴う市道の寸断等による地域の孤立を想定した、施設敷地緊急事態における在宅の避難行動要支援者の冬季避難訓練を実施した。

陸上自衛隊の到着後、町内会長、消防団、市職員で孤立地域の状況確認・協議を実施。救援ルート確保のため、陸上自衛隊の道路啓開により倒木処理を行い、高機動車で道路の段差を乗り越え、孤立地域の要配慮者の避難誘導を実施。

まず、ストレッチャーの要配慮者と支援者を陸上自衛隊の誘導により高機動車でバス避難集合場所まで搬送し、受付、安定ヨウ素剤の配布を行い、福祉車両に乗り換え、放射線防護施設へ避難を行った。

次に、車椅子の要配慮者と支援者を同様に避難誘導、高機動車による搬送後、受付、安定ヨウ素剤の配布を行い、福祉タクシーに乗り換え、避難先への避難を行った。

その後、通常以上に避難に時間がかかる要配慮者は自衛隊による避難誘導、高機動車による搬送後、受付、安定ヨウ素剤の配布を受け、避難用バスにより、避難先への避難を行った。

※放射線防護施設や避難先の村上市までは行かず、途中で折り返して訓練終了

8 住民避難訓練等の参加者の主な感想

- ▶ 自衛隊の高機動車は、地震時の搬送に役立つのではないかと。それほど揺れはなく、問題なかった。
- ▶ 道路が陥没した時に高機動車が集落まで来られるのか心配である。
- ▶ 初めてストレッチャーに乗ったが、曲がる際など丁寧に声掛けしてもらったので不安は感じなかった。移動もスムーズだった。
- ▶ 大雪になった場合、車椅子を押す・引くのに苦労すると思った。
- ▶ 自衛隊のチームワークが良い。
- ▶ 自衛隊、市職員、東京電力社員の連携が取れていた。指示等も的確だった。
- ▶ 大雪時の対応が心配である。
- ▶ 参加できとてもよかった。他の多くの方々も参加できればと思う。
- ▶ 震災の時はたくさんの条件が最悪重なるので、平常心を乱さず。
- ▶ 書面で理解するのと実際の訓練に参加するのでは違いがある。
- ▶ 今回の訓練で、各町内会に担架やストレッチャーが必要と感じた。

9 訓練で見えた課題と対策

・関係機関の連携強化について

【課題】 孤立地域発生 of 想定の下、PAZ内の在宅の避難行動要支援者について、陸上自衛隊の高機動車及び福祉車両等による避難訓練を実施した。在宅の避難行動要支援者については、災害発生時の安否確認から施設敷地緊急事態での避難の支援まで、地域の自主防災組織や消防団等の協力が必要不可欠であること、陸上自衛隊、消防団、市職員及び福祉車両事業者等がそれぞれの役割を明確にして連携する必要があることから、継続して訓練を行い、関係機関の連携を高める必要がある。

【対策】 在宅の避難行動要支援者の避難に係る対応力の向上と連携強化を図るため、引き続き様々な条件下における関係機関が連携した訓練の継続を新潟県に要望していく。

・訓練想定について

【課題】 大雪時と原子力災害との複合災害の避難を心配する声が多くある。これまで冬季積雪時の夜間停電時や地震等による地域の孤立想定での訓練を実施したが、実際に積雪はなかったため、冬季の避難を円滑かつ安全に行うためにも、積雪時に様々な状況を想定した訓練を実施し、課題の洗い出しをする必要がある。

【対策】 より厳しい条件下での避難となることも想定される。厳しい条件下での住民避難の課題を抽出するために、実際に降積雪がある中での訓練を実施し、より実践的な訓練も検討していただきたい。

・ **受付の効率化、簡略化について**

【課題】 本訓練では、ICTの活用はせず、避難者の氏名等の確認の受付と安定ヨウ素剤の緊急配布を行った。受付簿への氏名の記入など一人当たりの受付に時間を要すこと、バス避難集合場所に配置する市職員の人員は限られていることから、実災害時の大人数の受付には混雑や混乱が予想されるため、手順の簡略化や受付の効率化を図っていく必要がある。

【対策】 令和3（2021）年度以降の新潟県原子力防災訓練において、顔認証システムによる受付の試行実施やスマートフォンで二次元コード（QRコード）を用いた受付の実施など、ICTを活用しているところである。新潟県及び関係市町村と普及の進むマイナンバーカードを活用するなど住民の利用しやすいICTによる受付の効率化の検討を進めていくとともに、停電などで機器が使用できない状況における紙媒体等での受付手順の簡略化や効率化の検討を進める。

10 訓練の様子



陸上自衛隊の高機動車到着



町内会、市職員、自衛隊、消防団との孤立地域の状況確認・協議



自衛隊による道路啓開



自衛隊による住民誘導①
ストレッチャーの要配慮者の
高機動車への搬送



東京電力搬送要員、消防団によるス
トレッチャーへの乗せ替え



福祉車両への搬送
乗車後、放射線防護対策施設へ避難



自衛隊による住民誘導②
車椅子の要配慮者を高機動車へ乗車



要配慮者の避難支援
(施設内への誘導)



受付、安定ヨウ素剤の緊急配布



福祉タクシーでの避難



自衛隊による住民誘導③
高機動車でバス避難集合場所へ搬送



受付、安定ヨウ素剤の緊急配布



避難用バスへの乗車、消防団による
誘導